

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター (第21回)

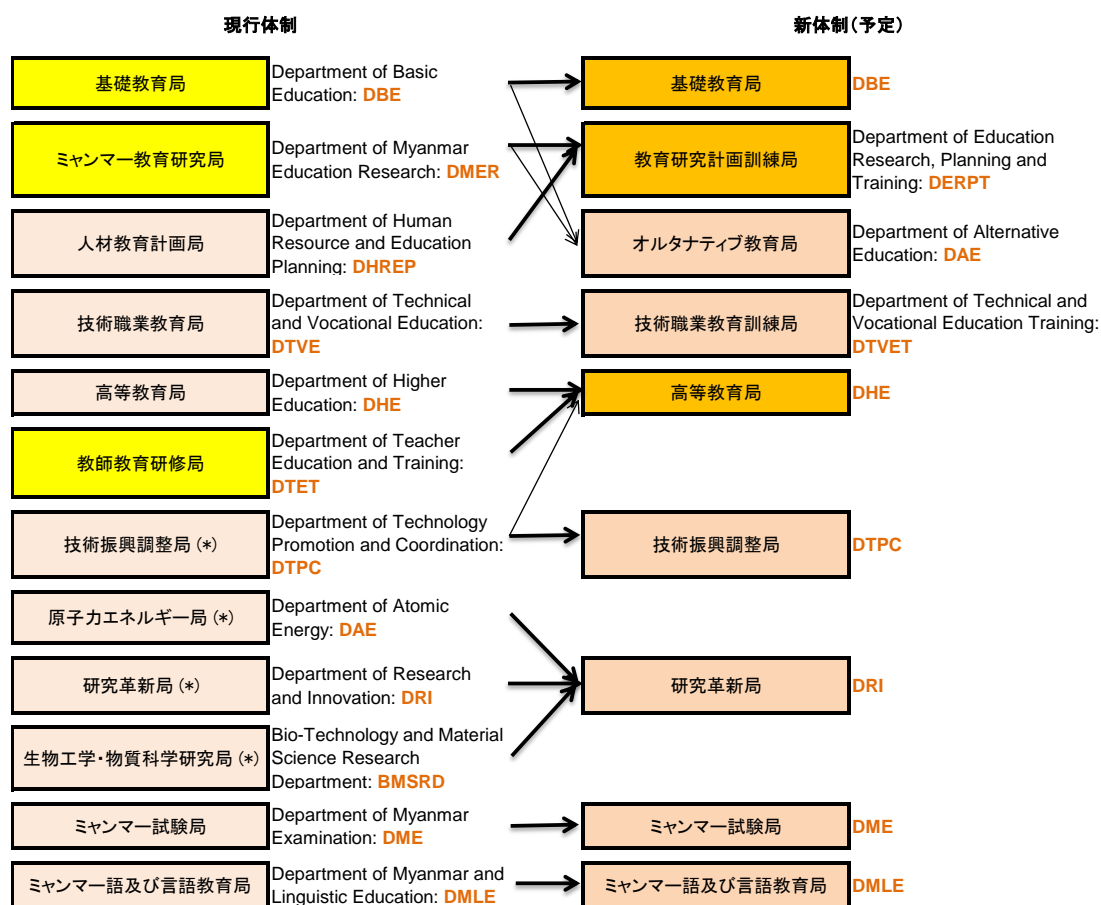
CREATE、第二年次いよいよ開始!

2016年5月2日(月)にJICAと正式な契約が締結され、CREATEは同日、第二年次が開始されました。今回の契約期間は2018年3月23日までの約二年間となります。なお、CREATEは第三年次も予定されており、最終的には2019年9月まで継続される予定です。

アウンサンスーチー氏率いる新政権の動向と教育省の今後

昨年11月の総選挙で大勝利をおさめた国民民主同盟 (National League for Democracy: NLD) による新政権がいよいよ始動しました。すでにメディアからの報道でご存じの方もおられるかと思いますが、今年4月初旬までは、新政権における大統領の選出を巡ってNLDや旧政権との間でかなりの駆け引きがあったようです。結果として穏健なティンチョー (Htin Kyaw) 氏が大統領に就任し、スーチー氏は大統領顧問、大統領府相及び外相の座に就くことで決着しました。実は、この少し前の3月末時点では、スーチー氏は上記の三つの職位に加えて、教育相、電力エネルギー相も兼任するという発表があり、CREATEの現地スタッフの間では驚きの声が上がっていたようです。

新政権は4月中旬の「水かけ祭り (テンジャン: ミャンマーの正月)」の後から本格的に動き出しました。教育大臣にはミョーテンジー (Myo Thein Gyi) 氏が就任し、その後すぐに教育省は「100日計画 (100 Days Plan)」を出すなど同国の改革が急速に進行しようとしています。また、この計画によれば、昨年再編されたばかりの教育省が再び編成し直されるようです。なお、新体制は以下のような予定です。



前頁の図から分かるように、現教育省は12局から構成されています(うち四局<図中 * 印>は旧科学技術省<Ministry of Science and Technology: MOST>から移管された局)、新体制では九局構成となる予定です。CREATEとの関係からすると、現行はミャンマー教育研究局(DMER)、基礎教育局(DBE)及び教師教育研修局(DTET)の三局がカウンターパートですが、**新体制では教育研究計画訓練局(DERPT)、基礎教育局(DBE)及び高等教育局(DHE)の三局**になる予定です。この再編で各局長も交代すると考えられますので、CREATEとしては、再度、新局長にプロジェクトの説明を改めて行っていく必要があります。

明日の新学年より新KG導入。ただし課題も山積!

昨年からいろいろと議論の的になっていた新KGですが、ようやく明日6月1日の新学年から導入されることになりました。ただ、直前までこの新KG導入については情報が錯綜し、5月16日付の“Global New Light of Myanmar”(半官半民の全国英字新聞)紙では「新KG導入が一年延期される」という誤ったニュースまで報じられるなどの混乱が見られました。

実は、この新KGに関しては当初からかなり根深い問題を抱えており、導入が決定した現在においてもその問題が完全に解決したとは言えません。話は2012年にまで遡りますが、当時の教育省は各国ドナーに対して支援分野の調整を行い、その結果、KGはUNICEF、初等教育はJICA、中等教育はADBが支援するということが決定されました。UNICEFは幼児教育専門家をミャンマーに派遣し、現行の教育状況を調査すると同時に、新しい幼児教育のあり方についての提言を行いました。その後、2014年に具体的な教材開発段階に入りましたが、2015年を予定していた導入は1年延期され、導入を前にUNICEFはKG支援から撤退しました。この結果、教育省は幼児教育の知見を十分に有しないまま教材開発を行い、新KG導入に係る現職教員を対象とした全国規模の研修も十分な検討を経ずに実施されました。

その後、NLDが政権をとり、新KGの教材は「使用に堪えない」という結論が出され、にわかには新KG導入に暗雲が垂れ込めたのです。最終的には、(当初計画からは1年遅れたものの)予定通り明日6月1日から新KGは導入されることになりましたが、教材なし、施設不十分、教員数の不足と能力不足など問題や課題は山積したままであるとの指摘がなされています。

G1教科書の進捗と今後の見通し

現在、各教科の教科書の最終確認がミャンマー側で進んでいます。内容の確認はこれまで教科別カリキュラム委員会(Subject-Wise Curriculum Committee: SWC)が行うことになっていましたが、SWCメンバーの多くは大学教官であり、講義やその準備で多忙なため、なかなか教科書内容を確認する時間がとれないという問題がありました。そこで、ミャンマー側のイニシアティブによって、今年3月にSWCのメンバーの中から比較的時間の融通がきくメンバーを集めた編集委員会(Editorial Committee: EC)が組織されました。現在、CDTはヤンゴン大学にてECメンバーと共に内容の確認作業を行っているところです。

教育省によれば、6月末までには教科書の最終確認を終えるとしていますが、ここに来て新たな問題が出てきました。というのは、ECメンバーは教科内容の専門性はあるものの、教授法などの知識はないため教員用指導書の内容確認はできないというのです。では一体、誰が教員用指導書の確認を行うのでしょうか?さらに教育省ミャンマー教育研究局の局長からは、初等教育カリキュラム、教科書及び教員用指導書の正式承認は教育基本法に則り国家カリキュラム委員会(National Curriculum Committee: NCC)に委ねる旨の発言がありました。実は、NCCは現段階では組織されておらず、いつ組織されるのかも未定なのです。

このように不安要素が次々に出てきており、CDTも小学校2年生の教科書開発という次の段階になかなか移れない状況となっています。

文責: 田中義隆 (カリキュラム・チームリーダー)

編集: 宮原光 (プロジェクト・コーディネーター)